

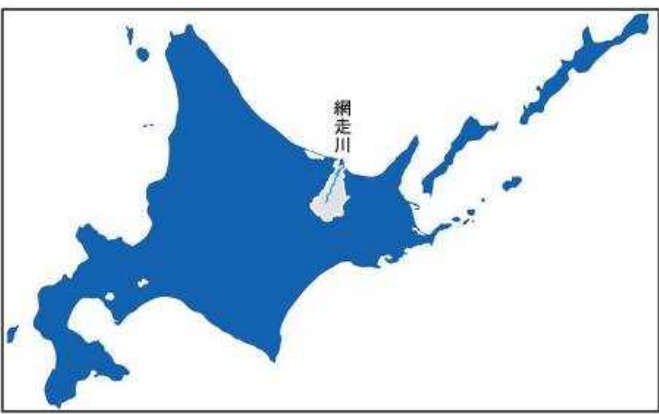
網走川について

<河川の特徴>

一級河川 網走川について

- ◆ 水 源 阿寒山系阿幌岳 (標高978m)
 - ◆ 流域面積 流域面積1,380km²
 - ◆ 流路延長 115km
- ・ 水源の阿幌岳より山間部を流下し、津別町市街地で津別川を合わせ、平野部を流れながら美幌町市街地において美幌川と合流します。

・ 美幌町を貫流し大空町において網走湖に至り、トマップ川、呼人川及び女満別川を網走湖内に集め、網走湖から網走市街地を経て網走市にてオホーツク海に注ぐ一級河川です。



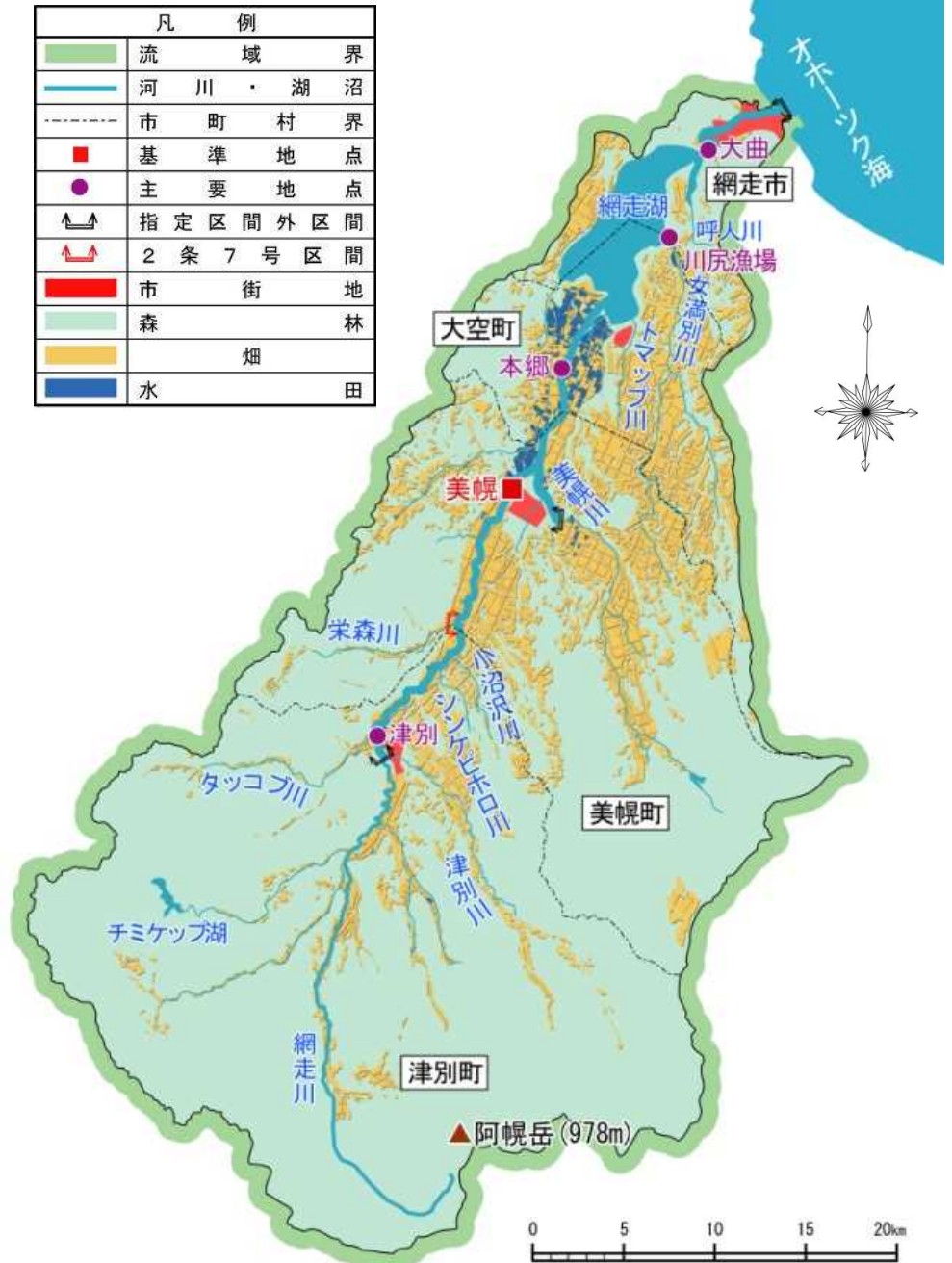
網走川位置図

・ 流域の土地利用は、森林等が約72%、農地が約26%、宅地等が約2%となっており、森林資源に恵まれています。

流域では、全国でも高い漁獲量を誇るシジミやワカサギ、シラウオ等を対象とした内水面漁業が網走湖を中心に行われ、海域ではサケやホタテ等を対象とした漁業が行われ全国有数の漁獲量を誇っています。

また、畑作を主体とする農業が盛んであり、下流域では農地として明治初期から開拓され、現在では、てんさいやタマネギの全国有数の産地となっています。

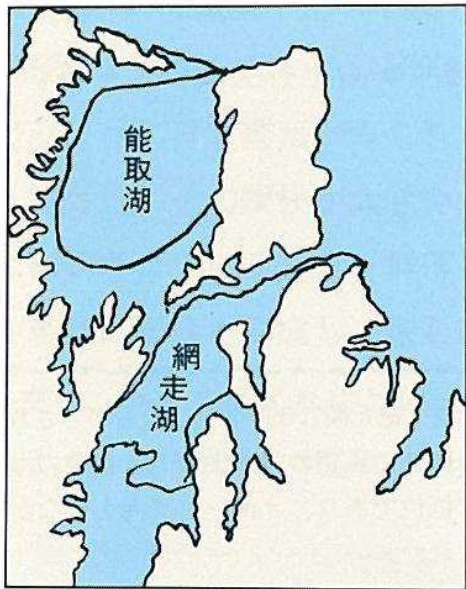
網走川流域図



網走湖の変遷

◆ 網走湖成因

- ・ 約1万年前は、海面水位が約10m高く、能取湖とオホーツク海に通じる海峡であった。
- ・ 約7,000～3,000年前には、海面水位の下降や地盤隆起等によって汽水化が進んだ。
- ・ 約3,000～1,500年前の海面水位は約3m高く、この年代には陸地の上昇が続いて淡水の流入による汽水化が進んだ。また、この年代で網走湖と能取湖は分離し、それぞれ異なった性質をもつ湖となっていった。
- ・ 約1,000年前に地表の上昇があり、ほぼ現在の湖の形になったと考えられる。



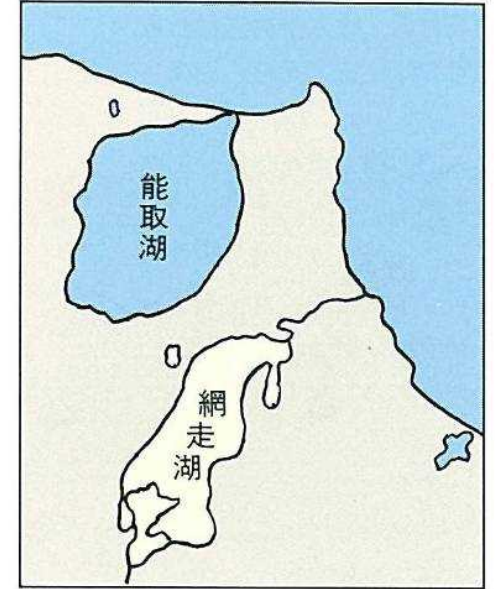
10,000～7,000年前



7,000～3,000年前



3,000～1,500年前

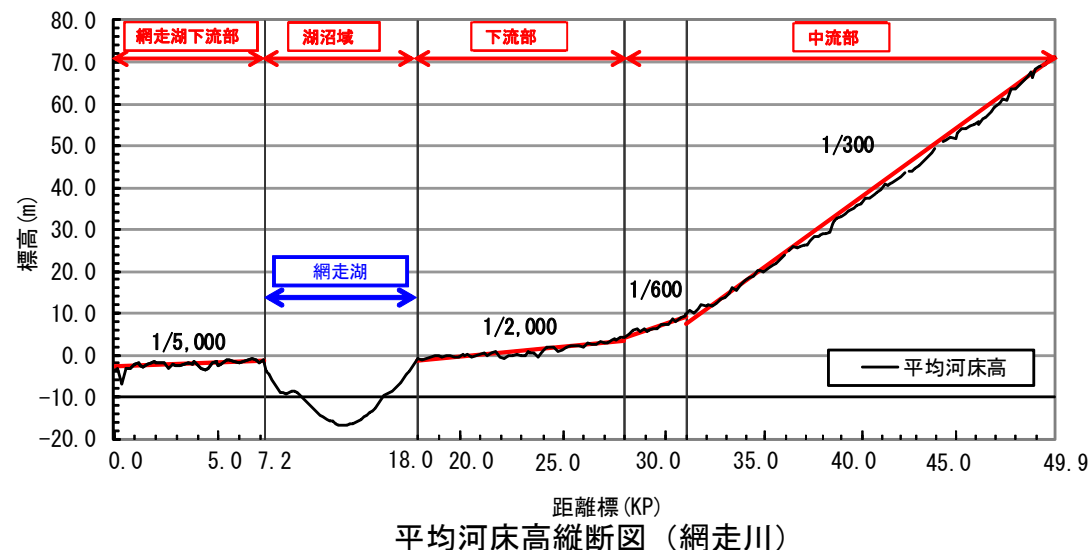
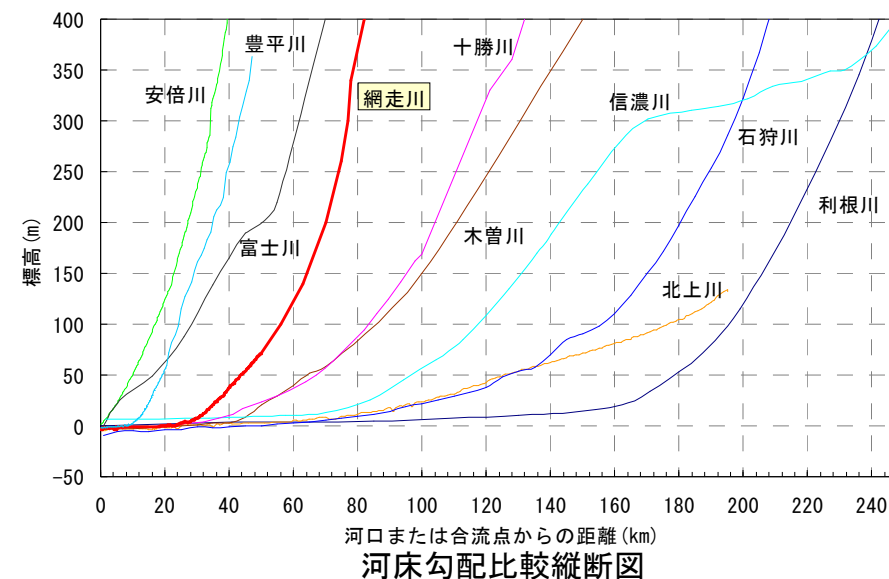
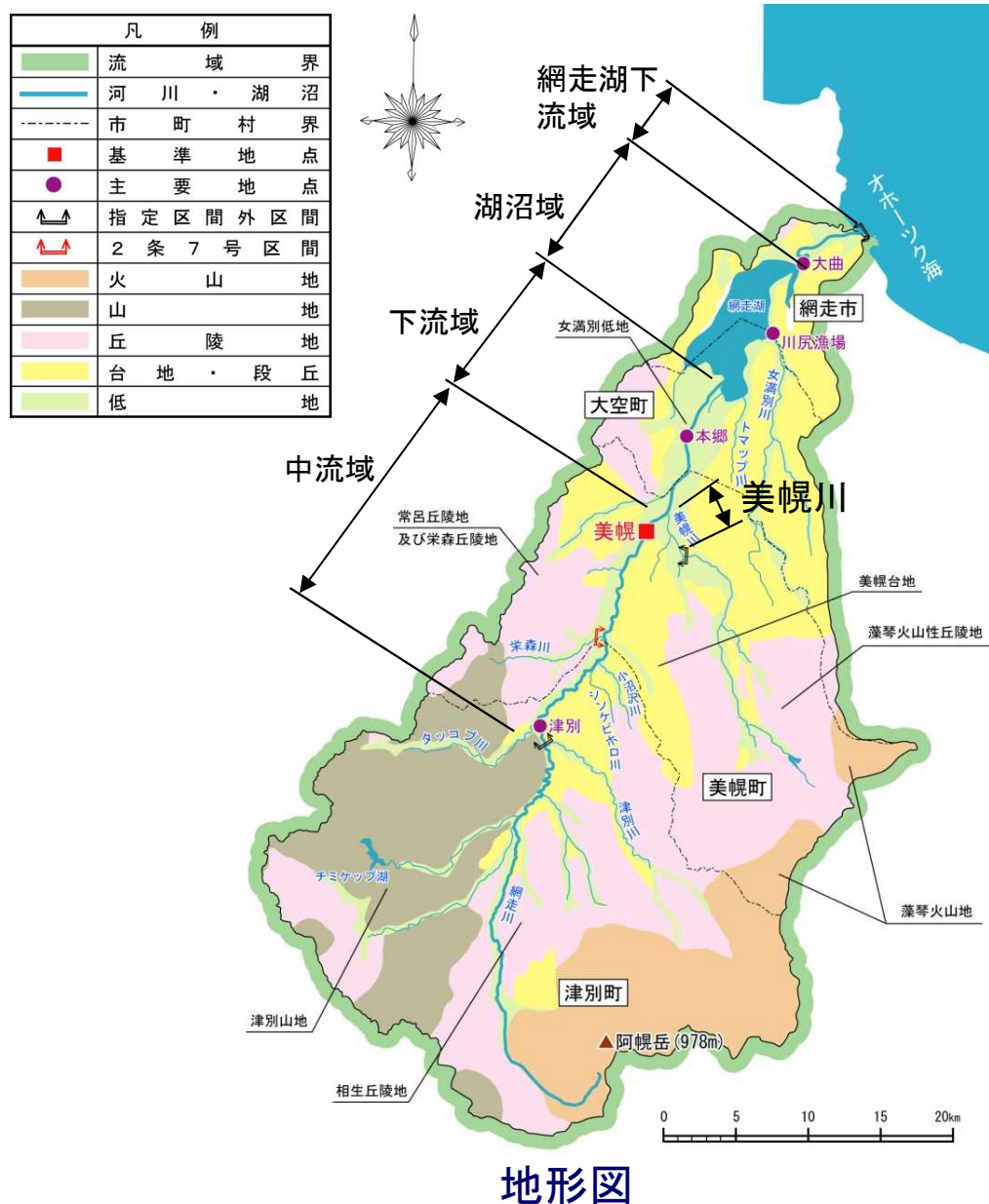


1,500年前～現在

凡 例 (海水の性質)			
	たかんすい 多鹹水 (海水)		低鹹水 (淡水)
	中鹹水		陸地

網走川流域の地形① 河道の特性

- ◆ 網走川の河床勾配は網走湖下流部で1/5,000程度、下流部で1/2,000程度、中流部で1/300～1/600程度である。



※海跡湖である網走湖に流入するため、網走湖上流を下流域と位置付。
※網走湖の湖床高は、最深湖床高とした。

網走川流域の地形② 流域の地形特性

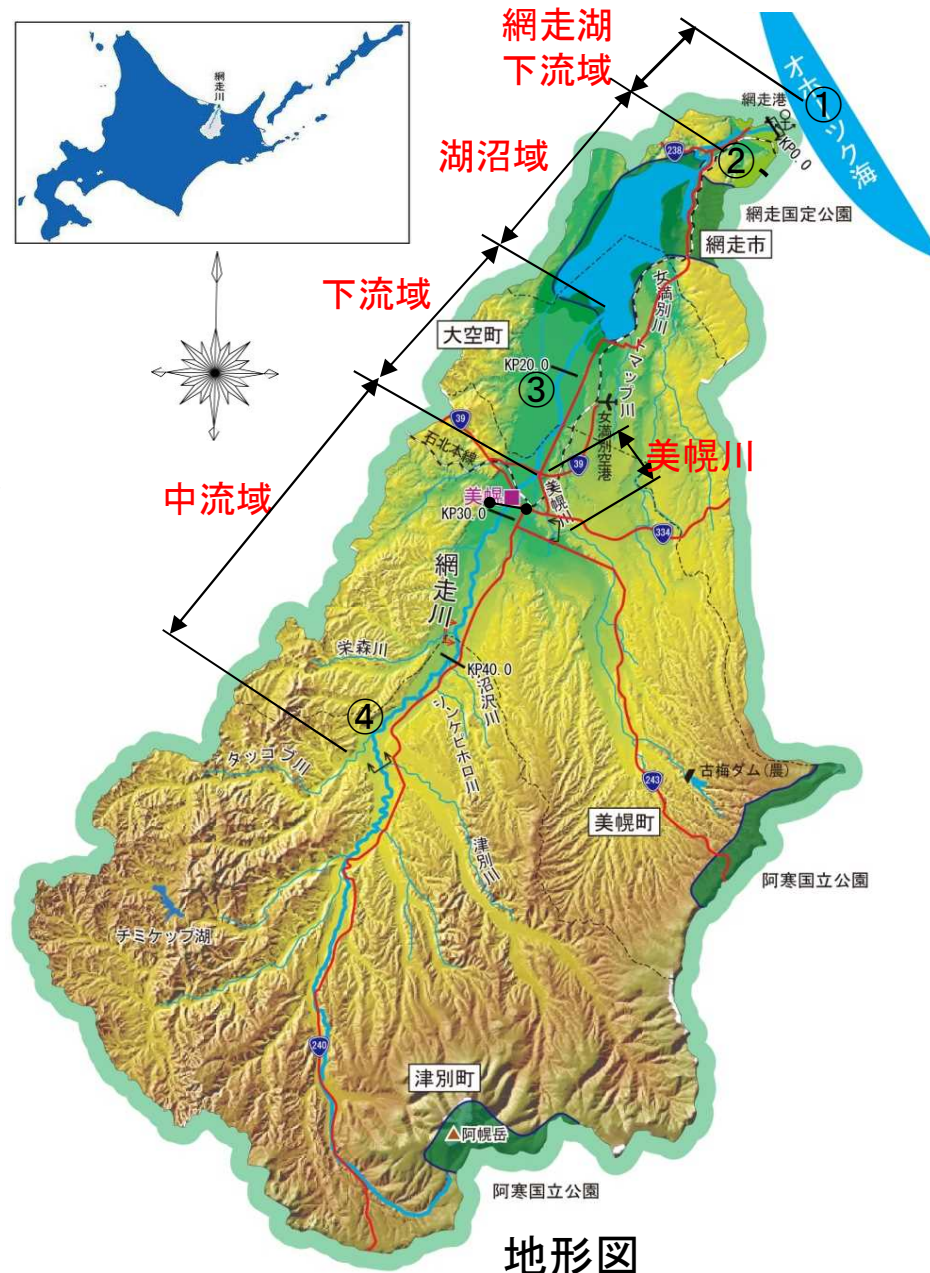
- 流域の地形は、大きく火山地、山地、丘陵地、台地、低地に分類される。
流域内に標高1,000mを超える山地は見られない。



① 網走川河口に位置する
物流、漁業の基地となる網走港



② 汽水湖である網走湖と網走川への
流出部



地形図



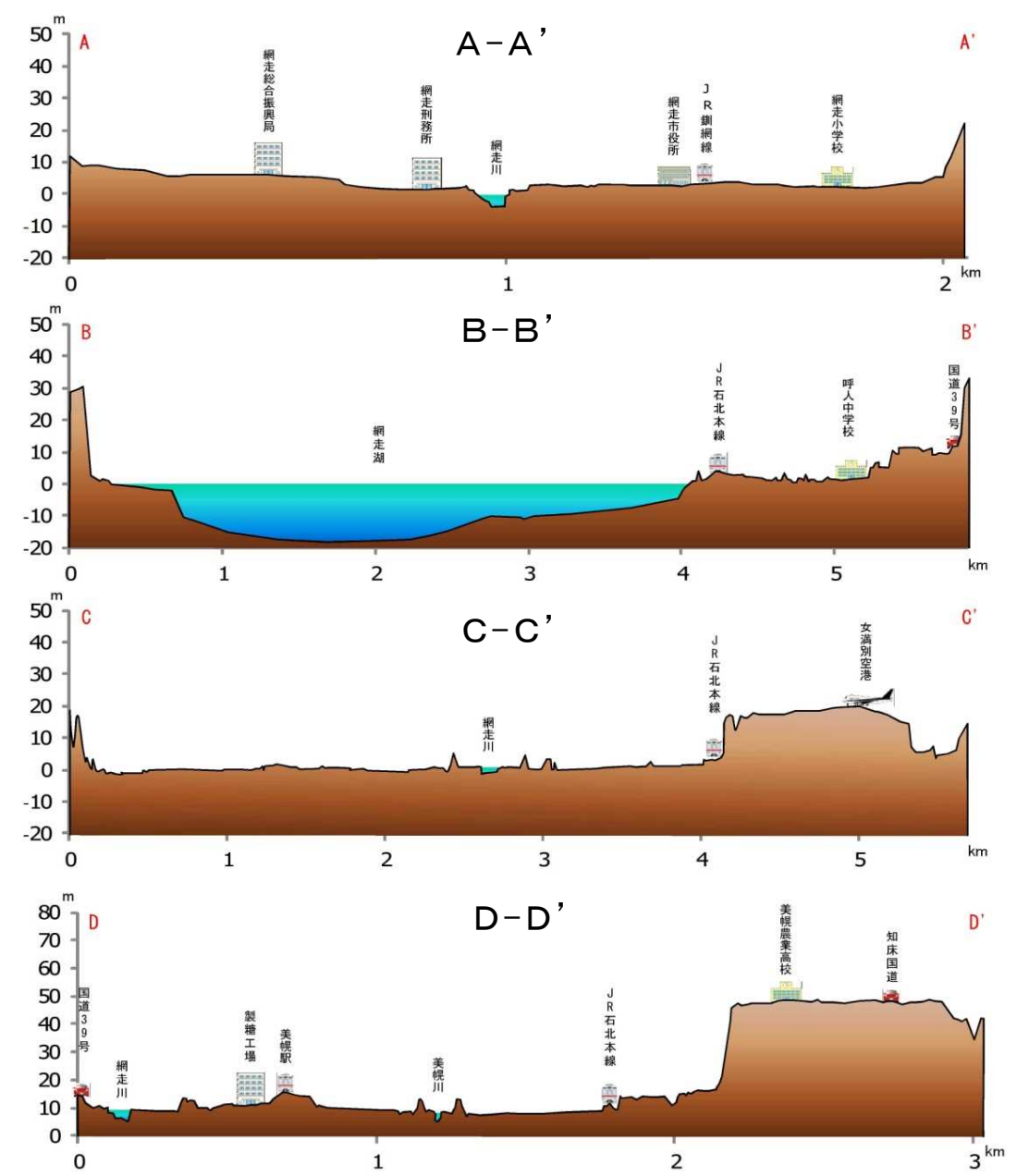
③ ゆっくりと流れる網走川下流域
(KP22.0付近)



④ 支川タッコブ川と網走川の
合流地点 (KP48.0付近)

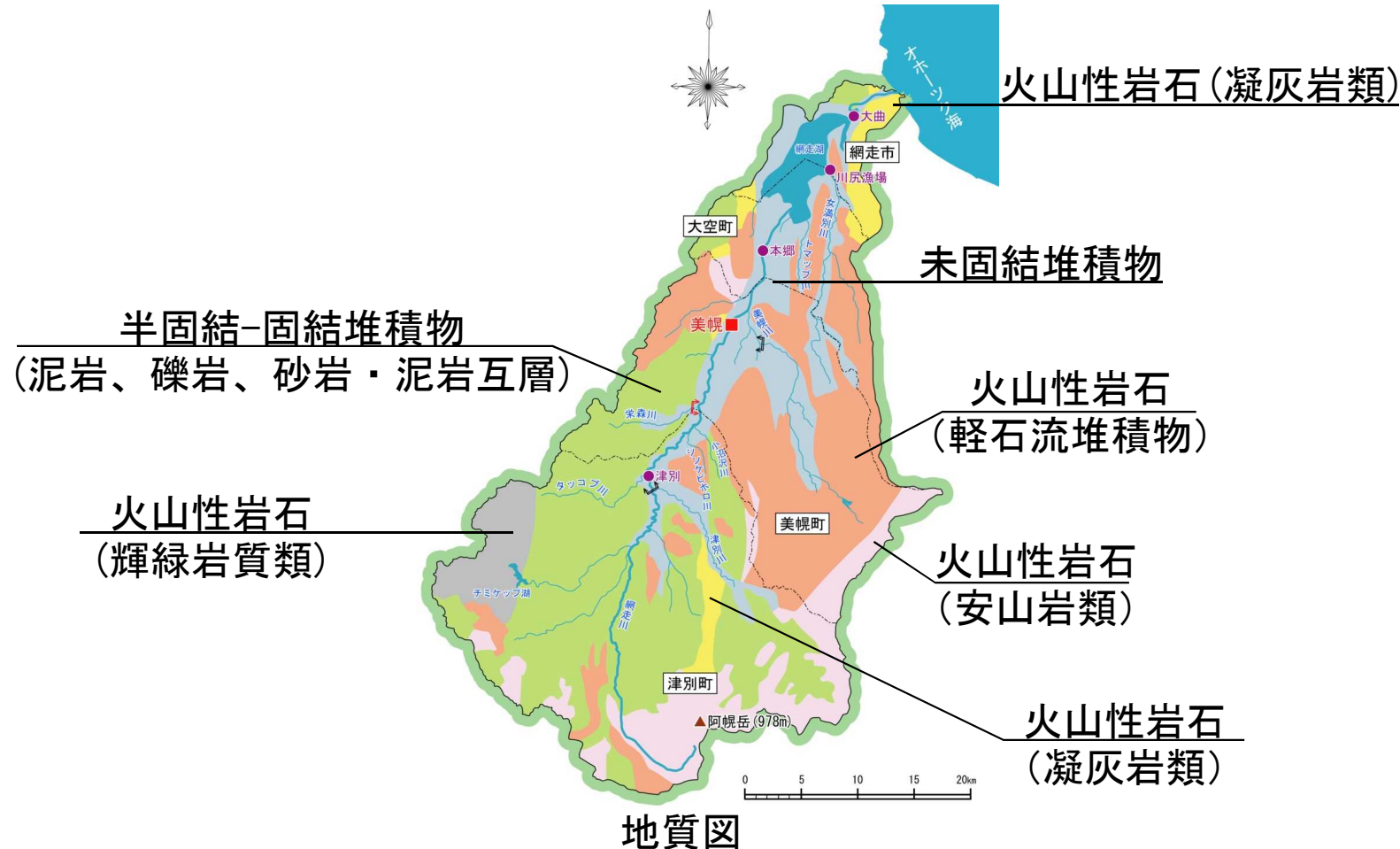
網走川流域の地形③ 河川周辺の地形特性

◆ 網走湖下流域の河川周辺は低地が広がり、下流域と中流域では低地の背後に段丘が発達している。



網走川流域の地質特性

- ◆ 流域の地質は、主に半固結-固結堆積物及び火山性岩石から構成されている。
 - ・ 上流域は第三紀の泥岩、礫岩、砂岩・泥岩互層が広く分布。
 - ・ 中流域は古第三紀の砂岩・泥岩互層、軽石流堆積物が広く分布。
 - ・ 津別から美幌にかけては砂礫を主体とした河岸段丘が発達。
 - ・ 網走湖付近の女満別低地には未固結堆積物の泥炭を含む軟弱土が分布。
- ◆ 河道横断箇所(1)の地質は、源流域が固い火山性岩石(安山岩類)で、指定区間外区間は主に軟弱な未固結堆積物とスレーキングが生じやすい火山性岩石(凝灰岩類)となっている。



凡 例	
	流域界
	河川・湖沼
	市町村界
	基準地点
	主要地点
	指定区間外区間
	2条7号区間
	未固結堆積物
	半固結—固結堆積物 (泥岩・礫岩・砂岩・泥岩互層)
	火山性岩石 (軽石流堆積物)
	火山性岩石(凝灰岩類)
	火山性岩石(安山岩類)
	火山性岩石(輝綠岩類)